

地域と大学

第26号

Newsletter No.26, Division of Regional Collaboration and Lifelong Learning

「連携」という新たな〈期待〉に応えられる 体制を充実させたい

人文社会科学部准教授・企画実施委員会委員 水谷 洋一

「審議会の委員として、適任の先生を紹介してくださいませんか？」「勉強会を開きたいのですが、静大にいい講師の先生はいませんか？」「〇〇について取材させていただける先生はいませんか？」「〇〇について、共同で研究・開発をしてくれる先生は静大にいませんか？」「ボランティアに興味のある学生は静大にいないですかね？」「学生たちと一緒に、まちづくりや村おこしの企画ができればと思うのですが……」

本学の教職員で、地域の方からこのような問いかけを受けたことがある人は少なくないだろう。しかし私の場合、多くのケースで「???」となってしまう。本学には約800人の教員と300人の職員、1万人の学生・院生がいるのだから、おそらくは適任の人材がいるのだろうが、それが誰だかわからない。「それでは、どこに問い合わせればいいのですか？」と尋ねられても、それもわからない。

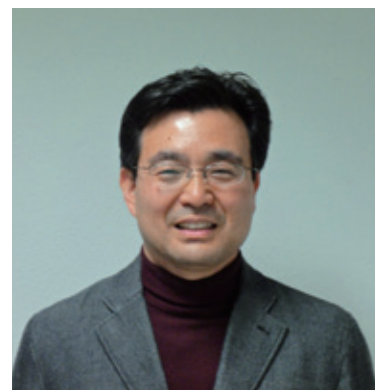
これらの問いかけは、とりもなおさず地域の方々からの静大への〈期待〉であり、それは本当にありがたいのだが、私の不甲斐ない答えは、おそらく地域の方々をガッカリさせてしまったに違いない。その上、本学が自らの使命を「教育」「研究」「社会連携」の3つだと掲げていることを知られてしまったら、私はもう顔もあげられない。他の教職員のみなさんはどうだろうか？

本学が組織的に様々な社会連携活動を展開してきたことは確かである。公開講座・シンポジウム、開放授業、出前授業、展示・公開や、イノベーション共同研究センターや知的財産本部を核とした多くの産学連携などなど。それらはいくばくか地域からの〈期待〉に

応えるものであったであろうし、また地域からの要望・要請によって実施したものや、地域の諸団体・組織と連携して実施したものもあった。私が本学に赴任した1997年に「静岡大学産学官協働推進機構」が設置され、その後、それが「地域連携協働センター」や「イノベーション共同研究センター」、「生涯学習教育研究センター」に組織的に発展し、現在は「イノベーション社会連携推進機構」に統合されている。その他にも実は、少なからぬ教職員や学生・院生たちが、個々に様々なチャンネルで地域の方々とは様々な関係を持ち、素晴らしい活動を展開している例もある。これらは事実であり、私は十分でないにしてもそれを知ってはいるが、先のような不甲斐なさである。他の教職員のみなさんはどうだろうか？

そんな私がドウコウという資格はないのかもしれないが、最近、半分「自分ゴト」、半分「ヒトゴト」として、心配していることがある。それは最近、本学が教育・研究分野に限らない包括的な提携協定を地域の様々な団体・組織と結ぶことが目立ってきたからである。例えば……

浜松市と：「産学官連携に関する包括協力協定」
(2006年)



静岡県と：「防災教育及び防災研究の振興並びに防災対策の発展に係る協力に関する協定」(2008年)

清水エスパルスと：「包括連携に関する協定」(2012年)

静岡市と：「包括連携に関する協定」(協議中)

これまで「協定」といえば、大学間の交流協定や企業との共同研究など、教育・研究分野ものがほとんどであったような気がする。そしてそれらには、なんとか本学は対応できてきた。しかし、上記の協定には、地域防災、まちづくり、地域産業活性化、地域環境の保全など、明らかに教育・研究分野の枠を越える事項が含まれている。それは社会(地域社会)の大学(本学)への<期待>が変化・拡大していることを反映していると思われるし、だからそれに応えて本学もこのような協定を結んでいる。しかしそうだとすれば、先のような「不甲斐なさ」はもう許されまい。包括連携協定を結んだ相手から冒頭のような問いかけを受けて、これまでのように「すみません……」では呆れられてしまうし、具体的な連携事業を持ちかけられて、「本学にそれに対応できる窓口も組織体制も資金的措置も

ありません！」というのでは、本学は<期待>の裏返してとして、こっぴどい評価を受けるであろう。

幸いなことに、連携相手の方々からは、今は本学にさほどの働きかけがあるわけではないようである。先方も、本学とどのような連携事業ができるのか、模索中なのであろう。おそらく地域社会から今後本学に寄せられる「連携」という<期待>は、本学としてもこれまで経験したことのない類のものであろうが、それは本学にとっては「重荷」ではなく、新たな価値を生み出せるフロンティアだと考えるべきであろう。「静大は、教育や研究だけでなく、社会連携という点でも存在感があるんだよね〜。」今は、本学が地域の方々からそんな風に評価していただける大学に成長するためのチャンスなのかもしれない。もしそうだとしたら、私のような不甲斐ない静大人を早めの一掃するために、「連携」という新たな<期待>に応えられる本学の体制をさらに充実させなければいけないだろう。

同僚の教職員の皆さん、学生・院生の皆さん、OB・OGのみなさん、静大関係者のみなさん、どう思われますか？

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

静岡大学では、大学創立60周年を機に、読売新聞東京本社静岡支局、中日新聞東海本社、コープしずおかと連携した市民向け講座を開講し、2012年度で4年目を迎えました。

継続して開講してきたため、いずれも市民の間に浸透・定着し、受講者の数は増加しています。

来年度も開講を計画していますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「〈いのち〉に挑む最前線」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	5/26(土)	寿命のない生き物が地球を変える、支える	加藤 憲二(静岡大学理学部教授)	170
2	6/23(土)	正義論と生命倫理	石井 潔(静岡大学理事・副学長)	142
3	7/21(土)	共生するいのち ~微生物にみる生命の生き残り戦略~	鮫島 玲子(静岡大学農学部准教授)	145
4	8/25(土)	終末期医療におけるいのちとこころ	笠井 仁(静岡大学人文社会科学部教授)	140
5	9/29(土)	〈弱さ〉という絆とコミュニティ ~病いの経験を物語ることの意味~	南山 浩二(静岡大学人文社会科学部教授)	125

■会場：静岡市産学交流センター(B-nest)6階プレゼンテーションルーム

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「震災後の日本を考える～社会の読み方、創り方～」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	10/13(土)	東日本大震災から津波防災を考える	原田賢治 (静岡大学防災総合センター准教授)	70
2	11/10(土)	正しく測って適切に怖がろう ～放射線計測の仕組みと活用～	青木 徹(静岡大学工学部・電子工学研究所准教授)	84
3	12/8 (土)	東日本大震災後の政府復興予算と自治体財政 ～なぜ生活再建が進まないのか～	川瀬憲子 (静岡大学人文社会科学部教授)	52
4	1/12 (土)	検証・新しいエネルギー計画はどのようにつくられたのか	水谷洋一 (静岡大学人文社会科学部准教授) +環境政策研究室学生	59
5	2/2 (土)	これからの政治のあり方 ～インターネットと政治参加～	佐藤哲也 (静岡大学情報学部准教授)	44

- 会場：静岡大学浜松キャンパス
- 参加費：無料
- 連携先：中日新聞東海本社

3 静岡大学・コープしずおか連携講座「食と健康を科学する」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	10/13(土)	食の安全・安心を考える	竹下温子 (静岡大学教育学部准教授)	45
2	10/20(土)	食とバイオサイエンス	木寄暁子 (静岡大学理学部准教授)	42
3	10/27(土)	食物繊維の効能～免疫とアレルギー～	日野真吾 (静岡大学農学部助教)	45

- 会場：沼津市民文化センター
- 参加費：無料
- 連携先：コープしずおか
- その他：上記講座に加え、静岡と浜松を会場として以下のとおり実施した。

[静岡会場] 「食物繊維の効能」(2/16) 於：静岡商工会議所
 「食の安全・安心を考える」(3/2) 於：静岡県教育会館
 [浜松会場] 「食物繊維の効能」(2/23) 於：浜松市福祉交流センター
 「食の安全・安心を考える」(3/16) 於：浜松市福祉交流センター

2012年度 静岡大学・読売新聞連続市民講座
「いのち」に挑む 最前線

第1回 2012.5.26
 寿命のない生き物が地球を変える、支える
 第2回 2012.6.23
 正統と生命倫理
 第3回 2012.7.21
 共生するいのち
 第4回 2012.8.25
 終末期医療におけるいのちとこころ
 第5回 2012.9.29
 (前編) という絆とコミュニティ
 第6回 2012.10.13
 (後編) という絆とコミュニティ

参加無料 時間 14:00～16:00 定員 各回120人

静岡大学・読売新聞連続市民講座
 「いのち」に挑む最前線」チラシ

静岡大学・中日新聞連携講座 全5回
震災後の日本を考える 社会の読み方、創り方

2012.10.13 (土) 14:00-16:00
 東日本大震災から津波防災を考える
 2012.11.10 (土) 14:00-16:00
 正しく測って適切に怖がろう～放射線計測の仕組みと活用～
 2012.12.8 (土) 14:00-16:00
 東日本大震災後の政府復興予算と自治体財政
 2013.1.12 (土) 14:00-16:00
 検証・新しいエネルギー計画はどのようにつくられたのか
 2013.2.2 (土) 14:00-16:00
 これからの政治のあり方～インターネットと政治参加～

参加無料

静岡大学・中日新聞連携講座
 「震災後の日本を考える～社会の読み方、創り方」チラシ

2012年度 静岡大学公開講座
食と健康を科学する

第1回 2012.10.13 (土) 14:00-16:00
 食の安全・安心を考える
 第2回 2012.10.20 (土) 14:00-16:00
 食とバイオサイエンス
 第3回 2012.10.27 (土) 14:00-16:00
 食物繊維の効能～免疫とアレルギー～

参加無料

静岡大学・コープしずおか
 連携講座「食と健康を科学する」チラシ

2012年度静岡大学公開講座が終了しました

講座名	講師	日時	会場	対象	定員	実数	受講料	部局
在宅医療・介護のこれからを考える～充実したネットワーク作りを目指して～ [全6回]	医療法人社団静岡健生会訪問看護ステーションふれあい所長・大村早苗 社会福祉法人美芳会理事・大塚芳子 法科大学院教授・宮下修一 浜松大学保健医療学部准教授・青田安史 人文社会科学部研究科教授・南山浩二 人文社会科学部研究科教授・松田 純	5/22・29、6/5・12・26、7/3(火)18:30～20:30	アイセル21 (葵生涯学習センター)	医療関係者、一般市民	40	50	1,800	人
安心登山のための読図とナビゲーションスキル (初級編)	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表選手・小泉成行	5/27(日)9:30～16:00	静岡キャンパス	登山・アウトドア活動を行う一般市民	25	21	3,000	教
ダンス必修化に対応した表現運動・ダンス指導者講習会	筑波大学教授・村田芳子 教育学部助教・山崎朱音 附属島田中学校教諭・下村和敏	①7/27、②8/3(金) 10:00～16:00	①静岡県男女共同参画センターあざれあ ②静岡キャンパス	静岡県内の小・中・高等学校教員	50	68	①1,000 ②500	実
理科教材開発ワークショップ (理科教師向け)	理学部教授・三重野 哲	8/1 (水) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学、高校の理科の先生	10	1	無料	理
体験!大学の化学実験[全2回]	機器分析センター准教授・近藤 満	8/4(土)、8/5(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生以上	20	40	無料	地
小学校外国語活動スキルアップ講座V	教育学部准教授・矢野 淳	8/17(金) 10:00～16:00	静岡キャンパス	静岡県内の小・中・特別支援学校教員	25	10	500	実
体験!大学の化学実験～光る物質の合成～	機器分析センター准教授・近藤 満	8/19(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生以上	20	28	無料	地
安心登山のための読図とナビゲーションスキル (中級編)	教育学部教授・村越 真 ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子	9/15(土) 9:30～16:00	屋外	登山・アウトドア活動を行う一般市民	15	17	4,000	教
静大キャンパス探訪～静岡キャンパスの自然～ [全4回]	理学部教授・和田秀樹 理学部准教授・徳岡 徹 農学部学術研究員・加藤英明 教育学部教授・小南陽亮	10/6・13・20・27(土)10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、小中高生 (中学生以下は保護者同伴)	20	18	無料	キ
食と健康を科学する [全3回]	教育学部准教授・竹下温子 理学部准教授・木嶋暁子 農学部助教・日野真吾	10/13・20・27(土) 14:00～16:00	沼津市民文化センター	一般市民	50	64	無料	地
お米を食べよう!～イネの収穫・調製教室～	農学部助教・浅井辰夫 農学部技術専門職員・西川浩二	10/20(土)9:00～12:00	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	小学生以上	20	8	1,000	農
バイオテクノロジー体験～茎頂培養をしてみよう～	農学部准教授・河原林和一郎	11/3(土)10:00～12:30	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	中学生以上	10	5	800	農
プロライフル&ノルディックウォーキングで里山バイアスロンと里山自然体験 [全3回]	教育学部教授・杉山康司 教育学部准教授・祝原 豊 名誉教授・中野偉夫 沼上資源循環センター啓発施設・重岡廣男	11/5・12・19日(月) 9:30～12:00	静岡キャンパスおよび周辺、体育館または合宿所	メディカルチェックで運動制限されていない健康な方	27	6	5,000	教
情報学アラカルト講座2012	情報学部教授・中尾健二 情報学部教授・山田文康 情報学部教授・小西達裕	11/10(土) 10:30～12:00	浜松キャンパス	興味のある方なら誰でも	各50	42	無料	情
家庭果樹を楽しもう!!～果樹のせん定教室～	農学部助教・八幡昌紀 前農学部教授・高木敏彦 農学部技術専門職員・増田幸直 農学部技術専門職員・成瀬博規	2013年2/27(水) 9:00～12:00	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	高校生以上	15	15	1,500	農

【主催欄凡例】

地 = イノベーション社会連携推進機構地域連携生涯学習部門
情 = 情報学部

実 = 教育学部附属教育実践総合センター

人 = 人文社会科学部
キ = キャンパスミュージアム

教 = 教育学部

農 = 農学部

2012年度下半期（10月～3月）の事業報告

主催事業

公開セミナー

「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学ぶって楽しい！」と題する公開セミナーを実施しました。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただきました。

・日時：2012年10月21日（日）9:15～12:20

・プログラム：

[演習]「アイスブレイク～学びのなかま～」講師：大畑智里（静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭、学校心理士）

[講義①]「お顔のケアで印象アップ！～素敵な大人をめざそう～」講師：上鶴りさ（資生堂販売(株)中部支社静岡オフィス）、大石景子（STACK hair design）

[講義②]「ダンスで交流してみよう！～ダンスはみんなの共通語～」講師：山崎朱音（静岡大学教育学部保健体育講座助教）

・参加費：無料

・参加者数：49人

・会場：静岡大学学生会館3Fホール

・企画：静岡県知的障害者就労研究会

静岡大学防災シンポジウム

「地域連携を通じて静岡地域の防災を考える」

静岡県では東海地震の危険性が指摘されるなかで種々の防災対策が講じられ、成果として静岡県危機管理センターを中心とした災害対応体制の充実や、多様な人材による人的ネットワークが構築されてきました。

このシンポジウムは、静岡県による様々な防災上の取り組みを紹介するとともに、大学と行政機関の連携による研究成果や、効果的な研究成果普及、人材育成のあり方などについて話題提供を行い、静岡県を中心とした地域防災の今後について考えることを目的に実施しました。

地域防災・地域医療をテーマとした基調講演では、専門家から身近な事例をおりまぜて最新の情報を参加者に提供しました。また、パネルディスカッション後

には参加者から多くの質問・意見が寄せられ、活発な議論が展開されました。

防災・医療の諸問題を参加者がわがこととして考える良い機会となり、大変意義あるシンポジウムとなりました。

・日時：2012年11月3日（土・祝）13:30～16:30

・会場：浜松プレスタワー17階 静岡新聞ホール（JR浜松駅前）

・プログラム：

①基調講演1「想定東海地震に備える」講師：小林佐登志（静岡県地震防災センター所長）

②基調講演2「災害に強い地域医療を目指して」講師：山岡泰治（浜松医科大学特任教授・静岡大学防災総合センター客員教授）

③パネルディスカッション「地域連携を通じて静岡地域の防災を考える」

[コーディネーター] 牛山素行（静岡大学防災総合センター副センター長）

[パネリスト] 小林佐登志、山岡泰治、前田恭伸（静岡大学工学部准教授）、横幕早季（静岡大学防災総合センター学術研究員）

・参加費：無料

・参加者数：59人

・後援：静岡県、浜松市、静岡新聞社・静岡放送

しずだいで飛ぶ教室 in 伊豆の国市

「幕末維新期の地域リーダーと伊豆」

「しずだいで飛ぶ教室」は、地域への大学開放事業の一つとして、静岡大学関係の教職員が、静岡県内の遠隔市町へ出向き、出前講演等を行うものです。今回は、伊豆の国市へ飛び、伊豆の国市教育委員会主催の「公民館講座」に協力して実施しました。

日本の近代化に大きな影響を及ぼした江川坦庵と柏木忠俊という2人の人物に注目して、地域に果たした役割、日本の近代化に貢献した足跡を分かりやすく説明しました。江川坦庵が主導した反射炉を世界遺産に登録しようと活動中の伊豆の国市ならではの講座となりました。

参加者からは、「普段聞くことの出来ない話題であり、非常に勉強になった。時間が短くて惜しい。この続きをもっと深く聞きたい」などの感想が多く寄せられ、大変好評でした。

- ・日時：2012年11月22日（木）19:00～20:30
- ・講師：今村直樹（静岡大学人文社会科学部准教授）
- ・参加費：無料
- ・会場：伊豆の国市長岡中央公民館（あやめ会館）
- ・主催：伊豆の国市教育委員会社会教育課、静岡大学イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）



博物館フォーラム

「博物館をデザインする仕事—その技術と実践」

博物館の展示は、学芸員だけでなく、博物館内外の多様な職種の人々によって支えられています。

特に、展示の設計やデザインに関しては、ディスプレイ全般を総合的に扱う専門業者である展示業者がその多くを負っています。

今回は、展示業者のデザイナーとして、全国各地の博物館における展示計画や設計に携わっている志水俊介氏をお迎えし、現在デザイナーとして関わられている沖縄の海洋文化館のリニューアル計画を中心に、展示デザインの実際について、実務者の立場からお話を伺いました。

また、同じく海洋文化館リニューアルのアドバイザーを務める本学教育学部教授の小西潤子氏と語り合いました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、研究紀要『静岡大学生涯学習教育研究』で別途報告する予定です。

- ・日時：2013年1月24日（木）12:45～14:15
- ・会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育B棟301教室
- ・プログラム：

- ①「ミュージアムデザインの仕事～もの・こと・ひと～」報告：志水俊介（株式会社乃村工芸社デザイナー）

- ②「フィールドと博物館をつなげる仕事～もの・情報の収集～」報告：小西潤子（静岡大学教育学部教授）
- ・コーディネーター：金子 淳（静岡大学社会連携推進機構准教授）
 - ・参加費：無料
 - ・参加者数：82人

公開シンポジウム

「学習ネットワークと生涯学習⑬」

「学習ネットワークと生涯学習」をテーマに実施する公開シンポジウムも、今回で15回目を数えました。今回は、社会教育施設と大学との連携・協働、自治体における市民と行政との協働による生涯学習・地域づくりの実践事例を取り上げながら、生涯学習のための学習ネットワーク構築の可能性を検討しました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、研究紀要『静岡大学生涯学習教育研究』で別途報告する予定です。

- ・日時：2013年1月31日（木）12:45～14:15
 - ・会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育L棟306教室
 - ・プログラム：
- ①「市民参画型生涯学習講座・東海金谷宿大学の20年」報告：杉山俊朗（東海金谷宿大学・学長）
 - ②「社会教育施設と大学の連携の可能性～静岡県立中央図書館・美術館との協働プロジェクトから～」報告：平野雅彦（静岡大学人文社会科学部客員教授）
- ・コーディネーター：菅野文彦（静岡大学教育学部付属教育実践総合センター長）
 - ・参加費：無料

静岡大学 博物館フォーラム

博物館の展示計画とデザインの実務を知る

2013.1.24[木]
12:45～14:15

※本学では、本学学生向けに授業「博物館展示計画」を開設し、一部公開も予定しています。

会場
静岡大学静岡キャンパス共通教育B棟401教室

参加費
参加費 無料 定員 100人

プログラム

①「博物館展示の設計とデザインの実務」報告：志水俊介（株式会社乃村工芸社デザイナー）
②「展示の設計とデザインの実務」報告：菅野文彦（静岡大学教育学部付属教育実践総合センター長）
③コーディネーター：金子 淳（静岡大学社会連携推進機構准教授）

申し込み
事前申し込み不要（当日、会場にて受け付けます）

お問い合わせ
TEL:054-243-2121 FAX:054-243-2122
E-MAIL:ic@u-shizuoka.ac.jp

主催
静岡大学社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）

公開シンポジウム

学習ネットワークと生涯学習 第15回

The Creation of Networks
of Lifelong Learning...

静岡大学生涯学習教育実践センターでは、1998年度から「学習ネットワークと生涯学習」をテーマとしたシンポジウムを開催しています。このシンポジウムは、地域や学校など様々な場面で学びを生活化する仕組みやネットワークに関する研究および実践を紹介し、議論するものです。

第15回の今回は、社会教育施設と大学との連携・協働、自治体における市民と行政との協働による生涯学習・地域づくりの実践事例を取り上げながら、生涯学習のための学習ネットワーク構築の可能性を検討しました。

Information

2013.1.31 [木]
12:45～14:15

参加無料

プログラム

①市民参画型生涯学習講座・東海金谷宿大学の20年
報告：杉山俊朗（東海金谷宿大学・学長）
②社会教育施設と大学の連携の可能性～静岡県立中央図書館・美術館との協働プロジェクトから～
報告：平野雅彦（静岡大学人文社会科学部客員教授）

コーディネーター
菅野文彦（静岡大学教育学部付属教育実践総合センター長）

会場
静岡大学静岡キャンパス共通教育L棟306教室

申し込み
当日会場にて受け付けます（事前申し込み不要）

交通案内
静岡大学静岡キャンパス共通教育L棟306教室

お問い合わせ
TEL:054-243-2121 FAX:054-243-2122
E-MAIL:ic@u-shizuoka.ac.jp

- ・参加者数：63人

共催事業

生涯学習指導者研修事業 「地域の資源を活かし、課題に取り組む公民館」

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施するものです。

公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育・生涯学習の場として、また地域づくりの拠点として、これまで以上に地域の住民・機関・団体との連携・協働が求められています。地域のもつ人材、文化、ネットワークなどを活かしながら、地域全体の総合的な取り組みが必要な課題と向き合い、住民・諸機関・団体相互の連携・学び合いの中で、課題解決を図る様々な事例に学び、これからの公民館の姿を考えました。

- ・日時：2013年2月15日（金）10:20～16:00
- ・会場：静岡市興津生涯学習交流館
- ・プログラム：
 - ①基調講演「駄菓子屋楽校で地域をひらく」講師：松田道雄（東北芸術工科大学教授）
 - ②実践事例報告
 - ・「みんなが交流し支えあう住みよい町づくり」報告者：田代益生（袋井市浅羽北公民館長）
 - ・「富士根南公民館の紹介」報告者：杉本博補（富士宮市富士根南公民館長）
 - ③グループワークとパネルディスカッション
- ・コメンテーター：渋江かさね（静岡大学教職大学院准教授）
- ・参加者数：48人
- ・参加費：無料



- ・主催：静岡大学イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）、静岡県公民館連絡協議会

企画協力事業

静岡市・大学連携事業 市民大学リレー講座 「国際派しずおか人、隣国を知る」

この事業は、静岡市内5大学と静岡市が主催して全5回の講座として実施するもので、このうち第1回が静岡大学の担当回でした。

日本ではあまり知られていませんが、ミクロネシアでは、現在でも日本語の演歌調の歌が歌われています。海洋文化論・文化人類学の視点から歌や踊りによるミクロネシアとの交流を見ながら、海のルートと循環するルーツのあり方を考えました。

- ・日時：2012年9月15日（土）～10月20日（土）
14:00～16:00
- ・プログラム：
 - ①9/15（土）「ミクロネシアにおける日本語歌謡」
講師：小西潤子（静岡大学教育学部教授）
 - ②9/22（土）「アジアの教科書に見る子どもたち」
講師：渋谷恵（常葉学園大学教授）
 - ③9/29（土）「食の文化と遺伝子多型」
講師：堀江信之（静岡英和学院大学短期大学部教授）
 - ④10/6（土）「日本を取り巻く海洋情勢」
講師：山田吉彦（東海大学教授）
 - ⑤10/20（土）「韓国企業はなぜこんなに元気なのか？」
講師：尹大栄（静岡県立大学准教授）
- ・参加費：無料
- ・会場：アイセル21
- ・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉学園大学、静岡市

吉田町大学特別公開講座 「長寿社会と向き合う」

- ・日時：2012年11月15日～12月20日までの毎週木曜日 [全6回] 19:30～21:00
- ・プログラム：
 - ①11/15「高齢者心理学から考える高齢者にとってのモノの使いやすさとは？」講師：須藤智（静岡大学大学教育センター講師）
 - ②11/22「高齢者と社会保障～法学の視点から～」講師：国京則幸（静岡大学人文社会科学部准教授）

- ③ 11/29「高齢化社会とまちづくり」講師：中條暁仁（静岡大学教育学部准教授）
 - ④ 12/6「高齢社会と介護保険」講師：高倉博樹（静岡大学人文社会科学部准教授）
 - ⑤ 12/13「もの忘れの心理学」講師：漁田武雄（静岡大学情報学部教授）
 - ⑥ 12/20「健康と運動～いくつになっても自分の事は自分でやる～」講師：中野美恵子（静岡大学教育学部教授）
- ・参加費：3,000円
 - ・会場：吉田町中央公民館
 - ・対象：高校生以上の方

市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目を、一般市民の方に開放するものです。単位の認定はありませんが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できます。正規学生と一緒に受講していただきますので、若い世代の学生と交流を持ちながら学ぶことができます。

2012年度の前・後学期別の開講科目数・受講者数の状況は下表のとおりです。

開講科目数			受講者数		
前学期	後学期	合計	前学期	後学期	合計
246	253	499	174	165	339



地域コミュニティ懇談会

近年、地域の方々の声を大学運営に反映していくことの意義が高まっており、その重要性は増えています。そこで本学でも、地域の方々の声を聴く機会を設けることとし、2011年度から、大学近隣自治会の役員の皆様と学長をはじめとする大学関係者との懇談会を開催しています。2012年度は静岡、浜松両キャンパスにおいて、それぞれ1月28日、31日に懇談会を開催しました。

自治会の方々からは、本学と協働しての防災対策や学生の生活態度等へのご意見・ご指摘をいただき、非常に有意義な会となりました。自治会の方々からいただいたご意見を大学運営に活かしていくとともに、来年度も本会を開催したいと考えています。

企画実施委員会

当部門には、「企画実施委員会」が組織されています。当部門の運営や組織、さらに本学の地域連携・生涯学習のあり方等について審議するとともに、全学公開講座の企画・立案・実施に関しても審議します。

- 戸田三津夫 工学部准教授
- 富田 涼都 農学部助教
- 須藤 智 大学教育センター講師
- 縣 猛男 学術情報部研究協力課長
- 大谷 悦子 部門パート事務職員

委員名簿（2012年度）

- 阿部 耕也 部門長・教授
- 金子 淳 部門専任教員・准教授
- 清水 一男 部門専任教員・准教授
- 満井 義政 機構特任教授
- 水谷 洋一 人文社会科学部准教授
- 小西 潤子 教育学部教授
- 浅間 正通 情報学部教授
- 三重野 哲 理学部教授

地域と大学 第26号

発行日——2013年3月15日

発行——静岡大学イノベーション社会連携推進機構
(地域連携生涯学習部門)

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
(理学部B棟1階)

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

(事務局) 学術情報部研究協力課 ☎ 054-238-4317